

あなたとJAを結ぶ情報誌

# あいら

▶トピックス…全国お茶まつり開催 他

2012

1

January

No.237



# 謹賀 新年

\*詳しくは  
15ページに掲載



# 年頭のあいさつ

代表理事組合長 樋脇 建治

新年あけましておめでとうございます。

組合員をはじめ地域の皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

かねてより、農協の事業運営につきまして、格別のご高配を賜り、まことに有難く厚く御礼申し上げます。

さて、2011年は新燃岳の噴火をはじめ、未曾有の大災害となった「東日本大震災」による津波や原発事故などが国民の心に大きな影をおとすとともに、未来に向けて学ぶべき多くの教訓を得ました。食料安全保障もその一つであり、一時的な食料供給不足を経験したことで、過度に貿易に依存するのではなく、地域・国内で食料生産を行うことが、いかに重要であるかを多くの国民が再認識することとなりました。

こうした中、民主党政権下で

突如として現れた例外なき関税撤廃を原則とするTPP(環太平洋戦略的経済連携協定)への交渉参加表明は、食料供給を海外に依存し、国土を荒廃させるばかりではなく、国内制度の規制緩和・撤廃を含めた包括的な内容となっており、わが国のあり様を大きく変えることから、引き続き阻止運動に取り組む必要があります。

さらに、消費者からの「安心・安全な国内農畜産物」に対する要望が高まる中で、産業としての農業復興は喫緊の課題であり、担い手づくりをはじめとする地域農業の振興と経済事業の改革に向けた対策を強化するなど、地域社会に根ざした社会的役割を担うための取り組みをすすめて参ります。

このため、第7次中期3か年計画の最終年度として、

- 1. 農業者が意欲を持って働ける農業づくり(農業力)

## 「地域と共生し、地域に貢献するJAづくり」に向けて

2. JA組織の特性を生かした地域づくり(地域力)

3. 地域に信頼される組織・経営づくり(経営力)

の三つの柱を中心に「食」を担い「地域」を支えるJAとしての役割発揮に向け、取り組んで参ります。

また、今年度より第4次経営改善計画を策定し、さらなる経営の健全性・信頼性の向上を追求するとともに、2012年は国際協同組合年であることを念頭に「地域と共生し、地域に信頼され、活力あるJAづくり」を実践して参ります。

そのためには、農業者および地域の皆様の切実な声を農業政策や事業運営に反映する必要があるため、組合員・利用者の絶大なるご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後に、2012年も皆様にとって幸多き年でありませう心からお祈り申し上げます。

経済担当常務  
黒葛原 富夫

皆様のご健康と多幸を心からお祈り致します。本年もどうぞよろしくお祈り申し上げます。  
平成二十四年 元旦

金融共済担当常務  
中條 秀二

初春  
本年も素晴らしい年となりませう。心からお祈り申し上げます。今後ともよろしくお願い致します。  
平成二十四年 元旦

# 全国お茶まつり開催 農林水産大臣賞と産地賞のW受賞

第65回全国お茶まつり鹿児島大会 in 霧島が11月12日から2日間霧島市国分を中心で開催されました。

同まつりは、茶の消費拡大や情報交換の場として全国の茶主産地の持ち回りで開かれ、鹿児島では9年ぶりの開催となりました。

12日に霧島市民会館で開かれた大会式典では、今年の全国茶品評会の褒章授賞式や茶業功労者の表彰などが行われました。式では、鹿児島県知事の伊藤祐一郎大会会長が「わが国の伝統作物であるお茶の拡大を図るためにも今大会を通じて、リーフ茶の振興と安定経営で茶業界の発展を期したい」とあいさつしました。

この後行われた授賞式では、普通煎茶30kgの部で溝辺町の有村幸製茶の有村幸二さんが農林水産大臣賞を受賞したのを始め、霧島市が産地賞を受賞するなど、



農林水産大臣賞を受賞する有村幸二さん



産地賞の受賞に喜ぶ前田市長と蔵園会長

霧島茶が躍進をみせました。また、会場周辺では、茶の農機展示や茶葉を利用した菓子などが来場者の人気を呼んだほか、ご当地井S1グランプリが開かれるなど、会場周辺は賑わいを見せていました。

その他の受賞者は次の通り（敬称略）  
お茶まつり大会会長賞

：有村幸製茶 有村幸二  
生産局長賞：徳重製茶 徳重利幸  
（社）日本茶業中央会長賞

：正香園製茶 有村拓矢  
全国茶生産団体連合会会長賞

：（有）蔵園製茶 蔵園孝博  
全国茶商工業協同組合連合会理事長賞

：（有）福永製茶 福永洋一  
茶業功労者：邊田 悟

## 「元気を出して」と 支援米を被災地へ送る

東日本大震災の被災地に元気を届けようと、集落営農組織が収穫した支援米の出発式が11月14日、溝辺町の（有）山口農園機工であり、営農組織の組合員や行政など約25人が出席しました。

支援米の取り組みを行ったのは、管内の6集落営農組織が作付け、収穫したものです。

支援数量は、6営農組織で玄米2,610kgを収穫し、福島県の南相馬市や小野町へ送られました。

支援物資は米の他、炭やメッセージ等もあり、輸送にあたる（有）山口農園機工の山口紀史さんに託されました。

集落営農組織の前畑一男副会長は「震災に負けることなく、米を食べて元気を出してほしい」と話していました。



支援米作りに協力した関係者の方々

## 早掘りたけんこの 出荷始まる



箱詰めされ初出荷される早掘りタケノコ

関東方面の料亭で人気の「早掘りたけんこ」の初出荷が11月14日、蒲生町のJAあいら蒲生選果場であり、2キロ入り36ケースが関東方面へ向け出荷されました。

早掘りたけのこは、柔らかく独特の歯触りが人気で、春の食材として料亭などで珍重されており高値で取引されています。

関係者によると、裏年だった昨年と比べ、量とも上回っており、昨年の初出荷時のキロ単価6千円を上回りたいとしています。

